

管理対象サーバのIPアドレスの変更手順について

対応バージョン

SSC1.x

概要

管理対象サーバのIPアドレスを変更した場合、SigmaSystemCenterのコンポーネント(SystemProvisioning, DeploymentManager, SystemMonitor)性能監視、ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent)に影響があります。

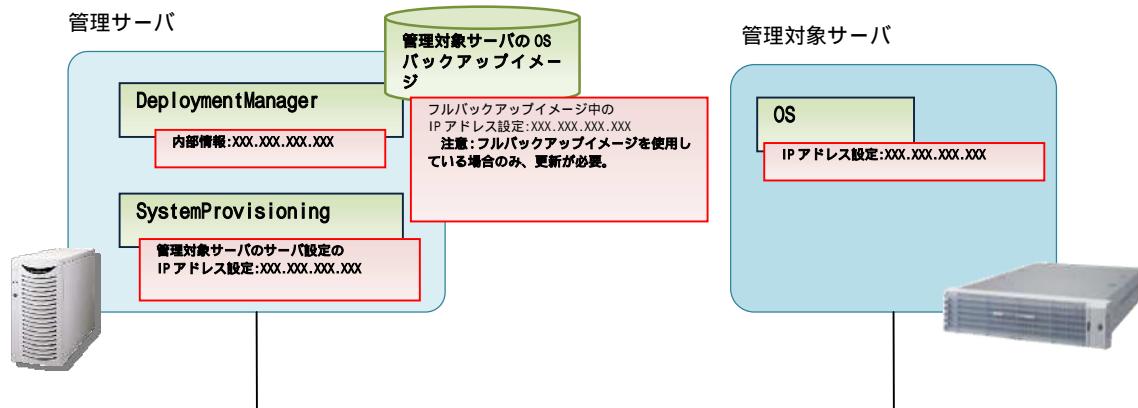
管理対象サーバのIPアドレスを変更する場合の、設定変更手順を記載します。

【SystemProvisioning・DeploymentManager】

管理対象サーバのIPアドレスを変更する場合、SystemProvisioningの"サーバ設定"で設定したIPアドレスの変更も必要です。以下にIPアドレスの変更手順を記載します。

1.物理サーバの場合

管理対象サーバのIPアドレスを変更する場合、次の図の赤で囲った箇所の設定変更が必要となります。



次の手順で変更してください。

- (1) 稼働中の管理対象サーバに対し、運用管理ツールから [プールで待機]または[グループから削除]を実行し、グループから管理対象サーバを削除します。本操作で、管理対象サーバはシャットダウンされます。
なお、ソフトウェア配布の配布タイミングの設定として、待機時の配布の設定がある場合は一旦配布の設定を削除した後に、[プールで待機]または[グループから削除]を実行してください。グループから管理対象サーバの削除が完了した後に、設定を元に戻してください。
- (2) 管理対象サーバを手動で起動後、OSにログインし、[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]から管理対象サーバのIPアドレスを変更してください。IPアドレスの設定が完了したら、管理対象サーバを再起動してください。管理対象サーバの再起動によりDeploymentManagerに登録されている内部情報が更新されます。
- (3) SystemProvisioningに登録されている管理対象サーバのIPアドレスの設定を変更します。まず、運用管理ツール上で変更対象の管理対象サーバが所属するグループのプロパティを表示します。次に[サーバ設定]ボタンをクリックし、「サーバ設定の一覧」ダイアログを表示します。一覧の中から変更対象のサーバを選択後に[編集]ボタンをクリックし「サーバ設定」ダイアログ

を表示します。「サーバ設定」ダイアログで、変更対象サーバのIPアドレスの設定を変更してください。

- (4) (1)でグループから削除した管理対象サーバに対し、運用管理ツールから[サーバの追加]を実行し、グループへの追加を行います。[サーバの追加]実行時に表示される「サーバ追加方法の選択」ダイアログでは、[ソフトウェアのインストールを行わずに、グループに追加します。]を選択します。また、「サーバ名の選択」ダイアログでは、(3)でIPアドレスを変更した管理対象サーバを選択します。
- (5) (4)で実行した[サーバの追加]のジョブが完了したら、管理対象サーバは使用可能な状態となります。

注意

グループ稼動時の配布ソフトウェアに、フルバックアップ型イメージ配信のシナリオが設定されている場合は、新たにイメージを採取していただく必要があります。

2.仮想サーバの場合

- (1) 管理対象サーバ(仮想サーバ)でIPアドレスを変更してください。DeploymentManagerに管理対象サーバ(仮想サーバ)を登録している場合は、IPアドレス変更後に管理対象サーバ(仮想サーバ)を再起動してください。管理対象サーバ(仮想サーバ)の再起動によりDeploymentManagerに登録されている内部情報が更新されます。
- (2) VirtualCenterのインベントリーパネルにて対象となる管理対象サーバ(仮想サーバ)が存在するHost(ESX)を右クリックし「Remove」を選択してください。
- (3) SystemProvisioningのグループから一旦外すため、SystemProvisioning画面からデータベース情報の更新を行ってください。
- (4) VirtualCenter画面から「Add Host」を選択し、(2)で削除したHost(ESX)を追加してください。
- (5) SystemProvisiningに管理対象サーバ(仮想サーバ)を再登録するため、SystemProvisioning画面からデータベース情報の更新を行ってください。
- (6) SystemProvisioningのグループに登録されているIPアドレスを、変更後のIPアドレスに合わせて変更してください。
- (7) 管理対象サーバ(仮想サーバ)を再度稼動します。ソフトウェアの配布を行わないで稼動してください。

注意

本手順は、SSC1.1(VirtualCenter1.4)を元に記載しておりますので、バージョンが違う場合は、名称等が変更されている場合があります。

(2)でHost(ESX)を「Remove」後、(3)の手順を実施するとHost(ESX)配下の管理対象サーバ(仮想サーバ)がSystemProvisiningから一旦全て削除されるため、削除された管理対象サーバ(仮想サーバ)に対して、再度(7)のSystemProvisioningグループに登録する手順が必要となりますのでご注意願います。

【SystemMonitor 性能監視】

SystemMonitor性能監視でIPアドレスを指定して性能データ取得を実施している場合、SystemMonitor性能監視上の管理対象サーバのIPアドレスの設定を変更する必要があります。

1) SystemProvisioningの構成反映機能を利用している場合

SystemProvisioningでの作業後の構成反映のタイミングで最新のIPアドレス情報が設定されるため、新たな設定はありません。

2) SystemProvisioning の構成反映機能を利用していない場合

SystemMonitor 性能監視の管理コンソールから手動で IP アドレスの変更を行ってください。

[ESMPRO/ServerManager, ServerAgent]

ESMPRO/ServerAgent が動作する管理対象サーバの IP アドレスを変更する場合以下の項目を変更してください。

1) ESMPRO/ServerManager 側の設定変更項目

統合ビューア上に登録されている Agent アイコンの IP アドレスを変更してください。

2) ESMPRO/ServerAgent 側の設定変更項目

高信頼性通報に自マシンの IP アドレス/ホスト名を指定している場合<Windows 版のみ>

Linux 版は変更項目なし

高信頼性通報に自マシンの IP アドレス/ホスト名を指定している場合、設定画面を開いて、再設定してください。

- 変更された IP アドレスを設定し OK ボタンで設定画面を閉じてください。
- ホスト名を指定している場合でも、一度設定画面を開いて OK ボタンで設定画面を閉じてください。

SNMP トラップの下記設定で自マシンの IP アドレスを設定している場合、変更された IP アドレスで再度設定を行ってください。

- SNMP Trap 送信先に自マシンの IP アドレスを指定している場合。
- SNMP サービスのセキュリティ設定にて"これらのホストから SNMP パケットを受け付ける"に自マシンの IP アドレスを指定している場合。

作成日 : 2008/10/31

更新日 : 2010/5/20